

「新たな日常」におけるインターネットのサービス品質確保に向けた提案募集

1 趣旨

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う在宅時間の増加等により、固定インターネットのトラヒックは大幅に増加しています。また、今後もテレワーク、遠隔教育、オンラインライブなど、デジタル活用が一層進むことで、トラヒックの更なる増加が想定されます。こうした中で、これらを支えるブロードバンドサービスについて、インターネット全体の混雑緩和や地域格差のない通信品質の確保を図っていくことが重要となっています。

このような状況を踏まえ、今般、総務省では「インターネットトラヒック研究会」（以下「研究会」という。）を開催し、「新たな日常」において依存度が高まるインターネットのサービス品質確保に向けて、全体的な視点から、インターネット経路上の諸課題を洗い出すための議論を始めたところです。

本提案募集では、研究会における議論に資するため、インターネット経路上の諸課題とその対策等について提案を広く、電気通信事業者、コンテンツ事業者及び一般の利用者等の皆様から募集するものです。

2 募集概要

「新たな日常」において依存度が高まるインターネットのトラヒックに関し、各検討項目に関する諸課題及びそれに対して考えられる具体的な対策等について、内容を記載の上、ご提案ください。

その際、研究会の検討項目の（１）～（４）のいずれに該当するか、合わせて記載してください。

※ 検討項目ごとの課題や提案の例（あくまで例示ですので、ご提案の際には具体的な記載をお願いいたします。）

（１）「新たな日常」におけるインターネット利用とその依存度の変化

- 在宅時間が増加して家庭でオンライン上の動画を見る機会が増えたが以前より読み込みにかかる時間が増えた
- テレワークを行う際に社内ネットワークへのアクセスが混雑している

（２）通信事業者等のインターネットトラヒックへの対応状況

- １ユーザ当たりのトラヒックが急増しており、新たな通信方式の導入や契約をしている上位のISPの切り替えを検討している。
- 特定コンテンツのトラヒックの増加が著しく、帯域制御の導入を検討している。
- ネットワークへの負荷軽減のため、自社コンテンツのダウンロードには速度制限をかけている。

(3) 利用者側のインターネット接続環境

- 無線 LAN を利用した際の通信速度が遅く、無線 LAN ルータの電源の入れ直しや設置場所の調整を行っている。無線 LAN ルータ自体も 10 年ぶりに買い換えを検討している。
- インターネットへの接続が不安定で、契約している ISP や回線事業者への連絡を都度行っている。
- 利用者からの接続環境に関する問合せに対して個社での対応に限界を感じており、他事業者との連携を模索している。

(4) インターネットトラヒックの首都圏一極集中の状況

- 大都市から地方に引っ越してインターネットの品質が悪くなったと感じている。
- 地方での ISP 事業に当たって上位回線事業者へのトランジット料金がネックになっているため、近隣地域の ISP とのトラヒック集約を行いトランジット費用を抑制できないか検討している。